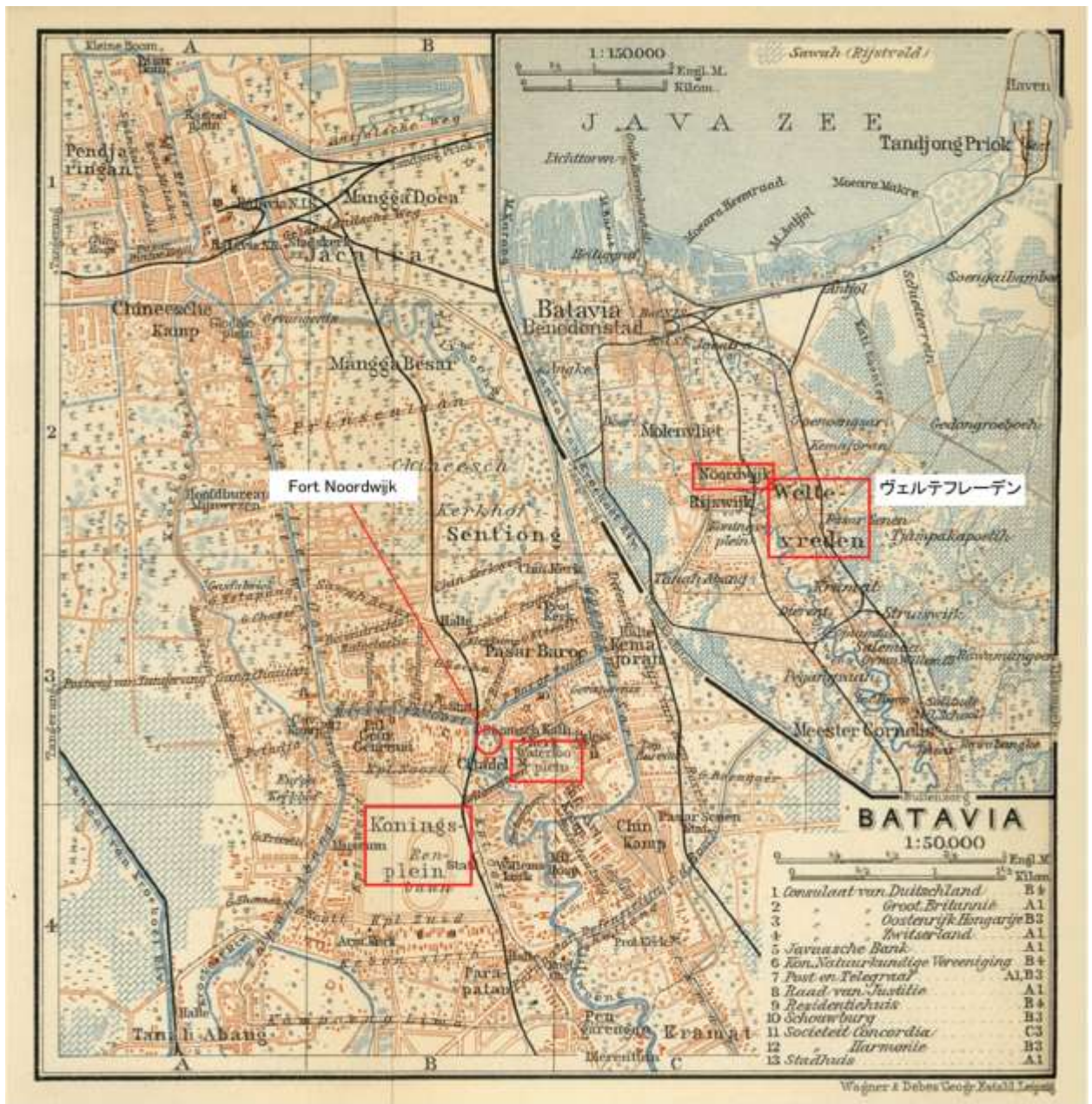


「ヴェルテフレーデン（１）」（２０２０年０４月１４日）

ダンデルス Herman Willem Daendels 第 37 代総督がバタヴィアの城壁を撤去してヴェルテフレーデン Weltevreden に町の中心を移したとき、新バタヴィア Nieuwe Batavia の都市計画の中にふたつの大型広場が予定されていた。ひとつは現在のバンテン広場 Lapangan Banteng、もうひとつは現在のモナス広場 Lapangan Monas だ。



今のバンテン広場は華やかさのない、地味であり人気のない公園にすぎないが、それは植民地時代と共和国時代でそれらふたつの大型広場の地位が逆転してしまった

めだ。バタヴィアで植民地支配者の威勢を輝かしてきたバンテン広場は、植民地支配者の没落と歩を同じくする運命をたどるのがその定めだったようだ。

反対に、植民地時代にそれほど重要な使われ方をしなかったモナス広場は、スカルノ大統領が華麗な変身を遂げさせた。かつてのバタヴィアの中心プラザだったバンテン広場のステータスはジャカルタのモナス広場に移されたのである。植民地支配者の遺産をできる限り消滅させようとしたスカルノの目論見は、国家儀典プラザに関する限り、十分な成功をおさめたとと言えるだろう。

オランダを支配下に置いた皇帝ナポレオン1世は、オランダ最大の海外支配地である東インドをイギリスに奪われまいとして、懐刀のダンデルスにその対策を命じた。1808年1月にバタヴィアに到着したダンデルスは前任のヴィーゼ Albertus Hendricus Wiese から総督の座を引き継ぐと、ただちにジャワ島防衛のための諸政策を展開し始めた。

城壁に囲まれたバタヴィア城市が時代遅れのもので、その当時の現代戦の役に立たないことを見て取った新総督は、バタヴィア中心部をもっと南のヴェルテフレーデンに移すことを決める。そしてヴェルテフレーデンから南へ6キロの距離にあるメステルコルネリスを軍事拠点にし、ヴェルテフレーデン南部に軍事施設をまとめて軍事ブロックとしての連携を持たせた。

ダンデルスのもうひとつの偉業は、ジャワ島の西端アニエル Anyer と東端にほど近いパナルカン Panarukan を結ぶ1千キロの大郵便道路 De Grote Postweg を一年間で建設させたことだ。この道路の完成によって、バタヴィアとスラバヤの間にあるジャワ島北岸部の主要都市に軍隊を移動させることがたいへん容易になった。イギリス軍がどの町に攻め込んで来ようが、短期間で応戦体制を構築することができる。

ヴェルテフレーデンという地名は元々、コルネリス・シャステレイン Cornelis Chastelein がその土地の地主だったときに命名されたものだ。その意味からヴェルテフレーデンの地所を特定するなら、パサルバル Pasar Baru 南側運河からイスティクラルモスク Masjid Istiqlal 東側のチリウン川 Kali Ciliwung を北縁・西縁として、グヌンサハリ Gunung Sahari 通り～パサルスネン Pasar Senen 通り（旧名南行き街道 de grote zuiderweg）を東縁、プラパタン Prapatan 通りを南縁とする広大な土地である。昔はプラパタン通りとクウィタン Kwitan 通りの間が川になっていたから、そこは南行き街道の西側にある川で囲まれていた土地、つまり川を境界線にしていた土地だったことがわかる。

しかしダンデルスが新バタヴィアを開いた後は、時代が下るにつれてバタヴィア中心部全体がヴェルテフレーデンと呼ばれるようになって行った。だからハルモニー Harmonie やレイスウェイク Rijswijk、あるいはコニングスプレイン Koningsplein 一帯などの本来ヴェルテフレーデンの外側だったエリアも、ヴェルテフレーデンという名称で呼ばれることがあった。だがわたしはシャステレインのヴェルテフレーデンという本来の用法に限定してこの話を進めて行く。[続く]

「ヴェルテフレーデン（２）」（２０２０年０４月１５日）

この地所が歴史にはじめて登場するのは、１６３２年のこと。１６２８・２９年に行われたスルタン・アグン Sultan Agung のバタヴィア進攻のほとぼりが冷めたころ、バタヴィアのＶＯＣ高級将校アントニー・パフィルユン Anthonij Paviljoen が攻撃的原住民や野獣の徘徊するその土地を開拓して自分の地所にし、ジャングルと湿地帯と草原から成るその場所で牛や水牛を飼育した。地主の名をとって、その地所はパフィルユンフェルド

Paviljoenveld と呼ばれた。

パフィルユンフェルドを中心にしてバタヴィア城市南部で開墾地が増やされ、米・野菜・果樹・サトウキビなどの農園が営まれるようになる。パフィルユンは華人に土地を貸して農園事業を行わせた。サトウキビ農園はサトウキビ搾り作業場を近くに建てた。今のタマンブジャンボン Taman Pejambon にはそのころ既にキビ搾り作業場が建てられている。

攻撃的原住民というのは、もちろんオランダ人とＶＯＣに敵意を持つプリブミであり、スルタン・アグンの進攻に従軍して帰還せずにそのまま残ったマタラム兵士たちや、バンテン王国から進出してくるゲリラ兵たち、更にはバタヴィアからの逃亡奴隷などがメインを占めていた。バタヴィア城市南部に出て来る人間が増加し始めると、農園の世話をする奴隷たちが襲撃されて殺される事件は頻繁に起こったし、華人やオランダ人も被害者になった。

また城市の壁の外のジャングルや湿地帯には、ワニ・トラ・ヒョウ・サイなどの猛獣や気の荒い野牛 banteng やイノシシ babi hutan などが棲息し、また毒蛇や人間を襲う毒虫が大量にいて、しばしば人間はそれらの被害者になった。バタヴィア設立初期

の時代、壁に囲まれた城市の外へ出るというのはたいへんな危険に直面することを意味していたのである。

アンチオルで働いている奴隷がトラの餌食になったことも再三だし、1659年にはジャングルで木を伐り出していた14人の人間がトラの群れに襲われて全滅している。ワニは壁で囲まれた城市の中にまで侵入してきた。1692年にはヨーロッパから到着したばかりのヨーロッパ人3人が巨大なワニに襲われ、近くにあった絞首台の柱によじ登ってかろうじて命拾いした事件も起こっている。絞首台が人間の命を救った世にも珍しい物語だ。

1644年に、後に第12代総督になるヨーン・マーツサイカーJoan Maetsuyckerは3百人（別の説では8百人）の勢子や射手を集めて城市南部地区で一大狩猟プロジェクトを実施し、南から北に向けて野獣を追い立て、大量の獲物をしとめた。その後の数日間は城市内で連日連夜のバーベキューが続けられたのではあるまいか。

その頃から18世紀末までのVOC時代、バタヴィア城市南部は狩猟愛好家のメッカになっていた。獰猛でないが狩猟の獲物に最適な鹿もたくさんいて、狩猟好きにはこたえられないほどの猟果を提供した。1762年には、27頭のトラとヒョウをしとめた狩猟グループに総督庁から褒美が出されている。バタヴィア城市外の南部地区にカントリーハウスを建てて暮らすVOC上級職員の増加は、そのような形での野獣の絶滅を南部地区にもたらす結果を招いたようだ。

アントニー・パフィルユンの開墾地は拡大を続け、そこで華人にサトウキビ・野菜・米などを作らせて、自ら行っている牧場と併せてバタヴィア城市内への食糧供給ソースのひとつにした。

パフィルユンフェルドー帯がバタヴィア城市のための食糧生産基地のひとつになると、生産活動の保全を考慮する必要が出て来る。1658年に南東方面の防衛基地としてノードウェイク要塞Fort Noordwijkが建設され、守備隊が常駐するようになった。バタヴィア城市からモーレンフリートを南下し、その南端と東のチリウン川を結ぶ（今のヴェテラン

Veteran 通り沿いの）運河の東端がチリウン川と交わる地点に設けられた防衛基地は、言うまでもなくパフィルユンフェルドの治安をも担った。要塞が設けられた場所は現在のイスティクラル Istiqlal モスクの地所の中だ。ダンデルスは1808年にノードウェイク要塞を撤去させた。[続く]

「ヴェルテフレーデン（３）」（２０２０年０４月１６日）

パフィルユンフェルドのオーナーとして次に登場するのがコルネリス・シャステレインで、VOC上級幹部だったかれが1696年にその土地の地主になっている。シャステレインはその土地にビラを建てて住み、種々の農園を設けて農産物を生産した。またいくつかビラを建てて快適な保養地に変え、VOCトップ階層の用に供した。ヴェルテフレーデンという言葉は、ひょっとしたら保養ビラ売り込みのキャッチフレーズだったのかもしれない。

かれが自分用のビラを建てた場所は後に軍中央病院になった所だ。南行き街道からそのビラに入って行くための道路が作られて、ガンクナガ Gang Kenanga（今のJl Senen Raya III）と命名された。ガンクナガの南側にはかつて質素な教会が建てられていたが、今はアトリウムスネン Atrium Senen 三角地区の北端商店街になっていて、教会は消滅している。ガンクナガという名称は1970年代でも地元民がまだ使用していたように記憶している。

次いで地主として登場するのがユスティヌス・フィンク Justinus Vinck だ。かれは1733年にヴェルテフレーデンを3万9千リングッで購入し、1735年にはヴェルテフレーデンの東側にスネン市場 Pasar Senen を、タナアバンにタナアバン市場 Pasar Tanah Abang を開設して大いに当てた。その頃既に、ヴェルテフレーデンとタナアバン地区がそれほどに充実した消費地区になっていたということだろう。

フィンクは両市場間の物資の流れを活発化させるために、その二カ所を結んで道路を設けた。スネン市場南端からヴェルテフレーデン南縁の川の北岸に道を作り、チリウン川とぶつかる所に橋を架けた。その道が今のプラパタン通りであり、その橋がグヌンアグン Gunung Agung 書店西側にある橋だ。更に道はその先で現在のクブンシリ Kebun Sirih 通りとなってタナアバン市場に向かう。

1749年にヤコブ・モッスル Jacob Mossel 第28代総督が2万8千リングッで地主になった。かれはシャステレインの邸宅を贅を尽くしたヴェルテフレーデンカントリーハウス Landhuis Weltevreden に変えてわが世の春を謳歌した。地所の西縁になるチリウン川に接して建てられたカントリーハウスは川の水を引き込んで池や養魚場が設けられ、チリウン川の船着き場からは舟遊びや川下りが行われていたにちがいない。

かれはまた、カントリーハウスから東向きに運河を掘り、南行き街道に突き当たったところで街道沿いに北上させ、街道の西側に沿って既に作られてある運河がパサルバルに曲がる場所に合流させた。これは自分の居所から南行き街道に出るための交通路の確保であると同時に、パサルスネンに向かう物資の輸送効率向上をも目的にするものだった。その運河が現在のカリリオ Kali Lio だ。

ジャカルタの現代地図を見ると、パサルスネン南端の交差点で広い道路が枝分かれし、バンテン広場へと向かっていく。このスネンラヤ通りは1770年の地図に出て来ないので、バンテン広場の建設後に作られたものかもしれない。モッスルの大邸宅の正面プロトコル道路を表門の真ん前で南から横切って交差する道路の建設を大邸宅の主人が許すはずはないだろうから、ヴェルテフレーデンカントリーハウスが威容を誇っているかぎり、スネンラヤ通りは日の目を見なかったようにわたしには思われる。

1836年になって、モッスルの大邸宅の跡地に軍中央病院が設けられた。もちろん東インド植民地軍の中央病院で、インドネシア共和国承認後に移管されて現在はガトスブロット Gatot Soebroto 陸軍中央病院になっている。モッスルの大邸宅がいつ壊されたのか、時期がはっきりしないのだが、ダンデルスが破壊を命じた可能性は高いように思われる。総督官邸と儀典プラザの南側をすべて軍用施設にしようと考えていたかれにとって、贅沢な大邸宅など邪魔になるばかりだったろうから。

[続く]

「ヴェルテフレーデン（４）」（2020年04月17日）

モッスルの没後、かれの親族が相続していたヴェルテフレーデンは1767年にファン・デル・パッラ Petrus Albertus van der Parra 第29代総督の手に落ちた。ファン・オーフェルストラテン Pieter Gerardus van Overstraten 第33代総督がその次の地主となったのは1797年のことだ。オーフェルストラテンはクウィタン通り南の土地を合わせて購入したのだが、ファン・デル・パッラが入手した金額よりもはるかに高い出費をした。多分、スネン市場から地主が入手する地代家賃が相当巨額なものになっていたのではないかと推測される。

18世紀後半には、狭く、不衛生不健康で、病気と死の巣窟と化したバタヴィア城市内から外に移り住もうとするオランダ人の流れは、既に歯止めのきかないものになっていた。

旧バタヴィアから住民はヤカトラヴェフ Jacatraweg、モーレンフリート Molenvliet 両岸、グヌンサハリ Goenoeng Saharie、そしてヴェルテフレーデンにまで居所を拡大していたのである。1779年には、バタヴィア市内住民人口12,312人、都市外住民人口160,986人という記録が残されている。ダンデルスは城壁に囲まれた瀕死の旧バタヴィアに引導を渡したのである。

ダンデルスの構想では、ヴェルテフレーデン北部に総督官邸と主要政府機関を収容する白亜の巨大な殿堂を建て、そこで国政を収攬するとともに、その殿堂の正面に国家行事を行うためのプラザを設けることにしていたようだ。白亜の巨大な殿堂はヴィッテハウス Het Witte Huis あるいはビッグハウス Het Groote Huis とあだ名された。総督はヴィッテハウスに住んで植民地の統治行政を行うのである。

ダンデルスのバタヴィア移転で貧乏くじを引いたのがファン・オーフェルストラテンだ。ダンデルスはヴェルテフレーデンを国有地に変え、オーフェルストラテンには賠償金として1万リングギットを与えて一件落着にってしまった。

ヴィッテハウスの建設工事開始は1809年3月7日で、公式オープンは1828年にデュ・ビュス・ドウ・ジジニー Leonard Pierre Joseph du Bus de Gisignies 第43代総督がオープンを宣した。旧バタヴィア都市の城壁を撤去したのは、ヴィッテハウスの建築資材として使うためだったという話になっている。その殿堂の正面に5.2Haのプラザが作られた。それが今のバンテン広場だ。

左右にウイングビルを従えたヴィッテハウスにはすべての政府機関が入り、また国家印刷出版局、中央郵便局、最高裁判所もその中に置かれた。最高裁判所は1848年に北隣にできた新ビルに移転している。

ヴィッテハウスは完成後、ほぼダンデルスの構想通りの使い方がなされたのだが、最大の齟齬は総督がそこで起居する総督宮殿として使われなかったことだろう。歴代の総督たちは、バイテンゾルフ宮殿 Paleis te Buitenzorg か、それでなければ今の国家宮殿 Istana Negara やムルデカ宮殿 Istana Merdeka、当時のレイスウェイクホテル Hotel te Rijswijk やコニングスプレイン宮殿 Paleis te Koningsplein を居所兼執務所にした。

とはいえ、ヴィッテハウスを総督が使わなかったということでは決してない。総督が賓客に接見したり、あるいは政財界貴頭を集めての聴聞や対話、政治や法曹関連の査問や審議などといった行事はヴィッテハウスで行われた。ヴィッテハウスは賓客の宿舎としても使われ、賓客の外出用として120頭の優れた馬を集めた厩舎や馬車ガレージも備えられていた。[続く]

「ヴェルテフレーデン（５）」（２０２０年０４月２０日）

ファン・イムホフ Gustaaf Willem baron van Imhoff 第２７代総督がバタヴィア城内を嫌って今のボゴールである南方の高原部に別荘を作ったのは１７５０年のことだった。それ以来イギリス占領時代のラフルズ総督を含めて３９人の総督がバイテンゾルフ宮殿を居所兼執務所にした。ダンデルス総督とて、その中のひとりだったのである。

とはいえ、毎週水曜日に開かれる東インド参議会 Raad van Indie/Dewan Hindia の会議のために週一度はバタヴィアに出て来なければならなかったことから、歴代総督はバタヴィアにも宿舎兼執務所を持った。ダンデルスはバタヴィアにいるとき、グヌンサハリ通り２番地の邸宅に滞在した。そこはアルティン Willem Arnold Alting 第３１代総督の住居だったところで、ヨハネス・ラッハ Johannes Rach のスケッチ画にも残されており、豪壮な大邸宅だったようだ。ラッハのスケッチ画には weeg Goenong Saari, 3 Paale van

Batvia と記されていて、３パールはちょうどヴェルテフレーデンの位置に当たり、現在のグヌンサハリ通り２番地とはまるで位置が違っている。

植民地政庁は総督のバタヴィア宿舎としてレイスウェイク宮殿 Paleis te Rijswijk を用意した。ただし一般には宮殿という名称を避けて、ホテルと呼ばれていた。この邸宅は元々実業家ファン・ブラアム Jacob Andries van Braam が自分の居所として１７９６年から建て始めて１８０４年に完成したもので、かれは１８１０年から１９年まで植民地政庁の高官職に就いている。１８２０年になってかれが没すると政庁がその邸宅を総督宿舎として借り受け、翌年には買い取ってしまった。

ヴィッテハウスの竣工はまだまだ先であり、総督たちはレイスウェイクホテルを利用したが、いざヴィッテハウスが完成した後もバイテンゾルフ暮らしとレイスウェイクホテルへの愛顧を断ち切ることをしなかった。完全なダンデルスの誤算だったにちがいない。このレイスウェイクホテルは現在の国家宮殿 Istana Negara であり、北側のヴェテラン通り側が正門になっている。モナス広場側に面している今の大統領宮殿（独立宮殿 Istana Merdeka）は１８７３年に建設が開始された。ジェイムス・ラウドン James Loudon 第５７代総督が総督執務所の拡張を命じたことから、その形で対応がとられ、１８７９年に完成した。完成後、この建物はコニングスプレイン宮殿 Paleis te Koningsplein と名付けられた。

ヴィッテハウスの表には広さ5.4Haの儀典プラザが作られた。今のバンテン広場だ。国政最高機関で同時に国家シンボルでもあるヴィッテハウスの表広場では、国家的祝祭や式典行事が行われた。軍隊のパレードが伴われるのが普通だったから、パレード場 Paradeplaats という名称で呼ばれていたようだ。もちろん植民地時代の名称として Para-deplaats というのはバンテン広場を指す固有名詞になっていた。

この中央国家儀典プラザに別の名称が与えられたのは1828年のことだった。オランダ王家を保護したイギリスの侵略からジャワを守るためにフランス皇帝ナポレオン一世の懐刀として乗り込んできたダンデルス総督は、ヴィッテハウスや儀典プラザのお膳立てをしてから1811年にヨーロッパに戻って行ったが、かれが旗振りを務めたナポレオンは1815年6月18日にベルギーのワーテルローで行われたイギリス・オランダを主力とする連合軍との戦いに敗れ、ついに没落してしまうことになる。こうしてヴィッテハウス正面プラザはオランダ王家にとってのワーテルロー戦勝記念広場にされた。プラザの真ん中にワーテルロー戦勝記念碑が建てられて、この広場はヴァーテルロー広場 Waterlooplein と呼ばれるようになった。プラザやパレード場よりは、はるかに親しみの持てる名称と言えるだろう。

ナポレオンの旗振りダンデルスが作ったプラザがナポレオン敗戦（と没落）を記念する広場にされたのだから、ダンデルスにとってこれほど皮肉なこともあるまい。それ以来この広場をオランダ人はヴァーテルロー広場と最後まで呼び続けた。[続く]

「ヴェルテフレーデン（6）」（2020年04月21日）

ヴァーテルロー広場は国家中央プラザであり、バタヴィアに作られたさまざまな広場よりも高いステータスを与えられたことは言うまでもない。祝賀際のような国家的催事が行われないうち、特に休日の夕方などはバタヴィアのエリート層が馬車でこの広場に集まって来て、軍楽隊の奏でる音楽を聴きながら社交活動にいそしむのが通例だった。社会がまだまだアダルトによって動かされていた時代だ。

時代が下って20世紀に入ると、エリート層の社交にとって代わってヤング層が自転車で集まって来るようになる。スポーツを好む若者たちはヴァーテルロー広場の片隅で蹴球や籠球を遊ぶようになり、特に青年女子は籠球を楽しんだ。自転車で集まって来る若者たちは、全員がスポーツをしに来ていたのではなかった。籠球を楽しんでいる運動着を着た娘たちを眺めるために集まってきていた者も少なくなかったという話だ。

1828年にヴァーテルロー広場に建てられた戦勝記念碑はたいへん高い一本の塔の頂上にライオンの像が置かれたものだった。プリブミ大衆はそのためにこのヴァーテルロー広場をライオン広場 Lapangan Singa と呼んだ。そのライオンの塔は日本軍政期に破壊されて姿を消したが、インドネシア共和国独立宣言後かなり経った1950年代まで、民衆はライオン広場の呼称を使い続けた。

オランダ植民地主義がジャカルタに残した遺産を激しく嫌ったスカルノ大統領は、ライオン広場という呼称を民衆に続けさせないようにするため、そこを野牛広場 Lapangan Banteng と呼ばせた。民衆の心を揺さぶるスカルノの演説の中に、“Kita adalah bangsa banteng, bukan bangsa tempe.” の一節は頻繁に登場した。

古い写真を見ても判るように、ライオンの塔は塔そのものが大きかったためにライオンの像が小さく見える結果を招き、オランダ人の間では決して評判の良いものではなかった。「ありゃあライオンじゃなくてエダムチーズに乗っているプードルだ。」というジョークが人口に膾炙したようだ。

一方、ヴァーテルロー広場に面したヴィッテハウスの表玄関のすぐ前に、バタヴィアの開祖ヤン・ピーテルスゾーン・クーン JP Coen 第4代総督の銅像が建てられた。建てられた時期に関するインドネシア語情報はふたつあって、ひとつはアルウィ・シヤハブ氏の書いているクーンのジャヤカルタ征服250周年を期した1869年5月30日。もうひとつの説はバタヴィア市 Stad Batavia 創設200年を記念して1876年に建てられたというものだが、バタヴィア市の発足は1621年3月4日であるため、この説は算数が合わない。オランダ語情報でもクーン像の建立時期を見つけることができなかった。

自ら力をふり絞って手に入れたこのバタヴィアの土地を指さし、「ネバーギブアップ」を唱えるクーンの像は、これまでの情報では日本軍が破壊したということになっていたのだが、昨今手に入るインドネシア語情報の中には、日本軍が破壊したのはライオンの塔で、クーンの銅像はスカルノ大統領が破壊を命じたと説明されているものが増えている。一方、オランダ語情報では日本軍が破壊者というものばかり見つかった。

オランダの遺産をすべからく嫌悪して、オランダ人が建てた記念碑を破壊し、バタヴィアをはじめとして多数のオランダ語地名まで抹殺した日本軍政が、いったいどうしてクーンの銅像だけを遺しておいたのか、まったく不可解な問題が出現してきたことになる。

[続く]

「ヴェルテフレーデン（7）」（2020年04月22日）

オランダ植民地政庁はヴァーテルロー広場にもうひとつ記念碑を建てた。ヴィッテハウスの表玄関の真正面で広場の最遠部の位置に1855年、ミヒュールス Andreas Victor Michiels 少将記念碑が建設された。現在のイスティクラル Istiqlal モスク南側一方通行道路プルウィラ Perwira 通りがバンテン広場に突き当たって来る場所だ。

ミヒュールス少将は東インド植民地軍首脳部にまで昇った人物で、1837年に西スマトラ海岸部レシデンに任命されていたとき、ナタル監視官だったエドゥアール・ダウス・デッカー Eduard Douwes Dekker に対して厳しい処分を与えている。それを忘れなかったデッカーは小説マックス・ハフェラアルの中で、かれをファン・ダム Van Damme 将軍の名前で登場させた。

1849年3月に東インド植民地軍がバリの諸王国に対して行った征服戦（第三次バリ進攻）のとき、植民地軍はいくつかの王国に対して勝利をおさめたが、クルンクン Klungkung 王国のゴアラワ Goa Lawah とクサンバ Kusamba を占領したものの、1849年5月23日、バリ人決死隊の夜襲のために司令官ミヒュールス将軍は一命を落とした。植民地政庁はかれの偉勲を称えて記念碑を国家中央プラザの一隅に設けたということだ。

このミヒュールス記念碑も日本軍がバタヴィアを占領したあとの1943年3月7日ごろに、他の像や記念碑とほぼ同時に破壊されたという記述がネット内に見つかり、そうすると、クーンの像だけを破壊しなかった日本軍の意図の不可解さが一層高まって来るのである。

ヴィッテハウスとパレード場の南側は将校官舎や兵営、諸軍本部建物や兵器庫などで埋められた。ダンデルスがジャワ島防衛のテコ入れを行った時期の東インド軍事力の中枢はVOCの残した軍隊になるはずと誰しも考えるだろうが、VOCの軍事力は会社と一緒に崩壊していたのである。オランダ本国がVOCの全資産を引き継いでから、本国から軍兵の補充がなされたのかどうかはよく分からない。

フランスの支配下に落ちたオランダから逃れてイギリスに庇護されたオラニエ王家がオランダ国民に対仏非協力・対英協力を呼びかけていたのだから、ジャワ島にいるオランダ人の中にダンデルスの指揮するジャワ島防衛に確信を抱けない、アンビヴァレンツな精神状態になっている者がいなかったわけがなく、フランスのために働いて

いるオランダ人ダンデルスにとっては全幅の信頼を置けない状況がそこに存在していただろうことは想像に余りある。

VOCの軍隊というのは最初、VOC本社がそのために雇用したヨーロッパ人とマルク～バタヴィアのVOC現地本部が雇用したアジア人戦闘員、そしてプリブミ奴隷兵士で構成されていた。関ヶ原の合戦後に日本人サムライ戦闘員が増加した話はよく知られている。メステルコルネリスの南にあるカンブムラユを興したワン・アブドゥル・バグス Wan Abdul Bagus の一党もVOCに雇用された戦闘部隊だったし、ウントゥン・スロパティ Untung Suropati はバリ人奴隷部隊を統率する、自分も奴隷身分の指揮官だった。

VOCの場合、非軍人として雇用された者でも非常事態になれば全員が武器を持って戦ったから、軍人の数だけで軍事力を云々するのは意味がないだろう。1622年のバタヴィア守備隊はわずか143人の正式VOC社員から成っていた。オランダ人57人、フラマン人・ワロン人17人、ドイツ・スイス・イギリス・スコットランド・アイルランド・デンマーク人60人、国籍不明者9人というのがその内訳だ。アジア人戦闘員や奴隷兵士は人数不明だが、その時期はまだマルクの方で層が厚かったように思われる。[続く]

「ヴェルテフレーデン（8）」（2020年04月23日）

VOCは最初ポルトガルの植民地を征服し、ポルトガル人が地元の女との間に作ったメスティーソと呼ばれる混血者を奴隷にしてバタヴィアに連れて来た。メスティーソはたいていがポルトガル系の姓を持ち、カソリック教徒だったから、同種宗教・同種文化の人間として扱いやすかったのかもしれない。だがそのうちに華人の勤勉さと聡明さが頭抜けていることを発見して、VOCはメスティーソを連れて来ることをやめ、プチナン Pecinan に住む華人をバタヴィア建設のパートナーにするようになる。

既に連れて来られたメスティーソはそのうちに奴隷身分から解放され、自由人としてVOCの兵士になっていった。加えて、バタヴィア建設と運営の下働きとして連れて来られたバリ・ムラユ・スラウェシなどのプリブミも、奴隷あるいは自由人としてVOCの兵士になる者がいた。およそ190年の間にVOCがバタヴィアに連れて来たプリブミは40種族12.8万人に達した。VOCが消滅するまでの間、ヨーロッパ人の数はだいたい2千人超程度に保たれていたようだから、プリブミの数がどんど

ん増加して行くためにヨーロッパ人の比率は縮小して行ったことになる。プリブミの中でも奴隷人口が常に最大多数になっていた。

18世紀には、解放奴隷の部隊がVOC軍事力のメインを占めたようだ。1777年には6個中隊およそ1千2百人がバタヴィア防衛軍を構成していたが、1803年に1個中隊に減らされ、1808年には完全消滅した。

VOC軍のそのような時代遅れの体制をモダン化させるための動きは、1790年に具体的な形を取った。ドイツからヴューテンバーグ連隊 Regiment Wurttemberg と呼ばれるドイツ人の軍隊が雇用されて原住民部隊を肩代わりしたのである。兵員数は2千人だった。VOCが消滅すると、蘭領東インド植民地政庁が契約を引き継ぎ、ドイツ人部隊は1808年まで東インドの軍務を担った。ダンデルスが東インド自前の軍隊を編成したとき、ヴューテンバーグ連隊のドイツ人が多数参加してプリブミ部隊の指揮官になった。かれらの多くが土着したことで、ドイツ系の姓を持つインドネシア人を大勢今に残している。

ダンデルスはそんな状態のジャワ島防衛軍事力に直面しなければならなかったわけだ。ダンデルスはまず、かれがもくろんだ8千から1万の兵力を持つ地元東インド軍の構築に取り掛かる。プリブミ兵士のリクルートが進められ、プリブミ兵部隊を指揮するヨーロッパ人中級将校の雇用も同時進行した。ヴューテンバーグ連隊のドイツ人がその役を担ったが、まだまだ足りない人数はヨーロッパの軍人を呼び集めることで満たさざるを得なかった。

しかしナポレオンが派遣した将校たちの多くはイギリス軍船の海上封鎖に引っかかって捕らえられ、ジャワにたどり着くことができなかった。おかげで中部ジャワ王家の息子たちの中にダンデルスの軍勢に加わって将校になった者もいる。パゲラン・アディパティ・ソチヨ・アディニンラ Pangeran Adipati Sotjo Adiningrat は大佐に、ラデン・トゥムングン・マンクディニンラ Raden Tumenggung Mangkudiningrat は中佐に叙されて従軍した。

ダンデルスのプリブミ兵士リクルートはマドゥラ・マカッサル・バリ・アンボンなどの種族を主対象にして、ジャワ人は対象から外したそうだ。プリブミ兵部隊にもヨーロッパ式の階級を与えて兵と下士官にし、兵員は武器・軍服・階級・食糧・訓練・賃金を与えられた。2年間でダンデルスのプリブミ軍勢は2万人に達し、機動師団・バタヴィア師団・スマラン師団・スラバヤ師団・外島防衛師団の5師団に分けられて各地に配備されたという話になっている。[続く]

「ヴェルテフレーデン（９）」（２０２０年０４月２４日）

だがいずれにせよ、そんなものでその当時世界最高レベルのイギリス軍を正面から受けて立つことなど不可能だ。フランス革命に心酔して革命軍に加わり、連戦錬磨の指揮官を努めて来たダンデルスには、それが分かりすぎるほど分かっていた。フランスの精鋭軍がそこにどうしても加わらなければならないのである。かれはナポレオンに軍勢派遣を要請した。

ジャワ島を取り囲んで封鎖しているイギリス軍船の網の目をかいくぐってフランス軍第１２歩兵大隊がモーリシャス Mauritius から到着したとき、その兵員を收容するためにヴィッテハウス北側と南側のブロックがすべて使われた。こうしてヴィッテハウスとパレード場の線から南側は、ダンデルスが編成した東インド防衛軍で埋め尽くされることになる。ダンデルスはその場所で２万人の軍勢を收容することを予定していた。

冒頭に書いた新バタヴィアのもうひとつの大型広場、現在のモナス広場は、ダンデルスが構築した軍隊の演習場として使うようにかれが計画したものだったのである。元々そこには、オランダ人がブッフエルスフェルド Buffelsveld（英語の意味は buffalo/bison field）と呼んでいたただっ広い草地があった。ダンデルスはそのを広げて整地し、東インド防衛軍の演習訓練を行うための場所にしようと考えた。そのときダンデルスはその演習場をフランス語で Champs de Mars と命名したそうだと。そうすると、ヴァーテルロー広場が最初パレード場とオランダ語で呼ばれていたのと同じ意味になり、単に言語を違えただけのものになる。

もうひとつ奇妙なのは、モナス広場の一番最初の名称がインドネシア語にするとバンテン広場になることであり、スカルノがバンテン広場の名称をヴァーテルロー広場に献じたことが何やら因縁めいてくる。スカルノがこの錯綜を意識していたのかどうかは想像がつかない。

この演習場にカギカズラの木がたくさん生えていたことから、プリブミはこの場所をガンビル広場 Lapangan Gambir と呼んだ。現在のガンビル鉄道駅がある一帯だけでなく、モナス広場全体がガンビル広場と呼ばれていたということだ。ガンビル広場で軍隊の演習訓練が行われなくなると、この広場には住民の憩いのための公園や政府機関が置かれて、ただっ広かった広場が変貌して行くようになる。

1808年11月、ダンデルスの軍勢はヨーロッパ人3千7百人、プリブミ11,520人だった。1811年4月にはバリ人とマカッサル人の奴隷から成るプリブミ精鋭部隊が1,774人に達した。奴隷は8年間の軍隊勤務を果たし終わると、奴隷身分から解放された。

ナポレオンに呼び戻されたダンデルスは1811年5月にジャワを去り、12月にパリに戻るとナポレオン軍第26師団司令官に任じられてベレジナ Berezina に出撃する。ジャワ島におけるダンデルスの後任はヤン・ヴィレム・ヤンセンス Jan Willem Janssens 第38代総督が任じられて、イギリス軍の攻撃を受けて立つ態勢に入った。1811年8月、ついにイギリス東インド会社のジャワ島進攻軍がチリンチン Cilincing 海岸に上陸を開始し、バタヴィア攻防戦の火ぶたが切って落とされる。

ラフルズのジャワ島侵攻と呼ばれるこのときの戦争に投入された兵力は、イギリス側1万2千人、オランダ・フランス側が1万7千人だったとされているので、ヴェルテフレーデンに入っていたダンデルスの軍勢は2万人に達していなかったのだろう。おまけにメステルコルネリスにも分散させたのだから、ヴェルテフレーデン住民の数はもっと少なかったのではないだろうか？[続く]

「ヴェルテフレーデン（10）」（2020年04月27日）

戦争の後、イギリスがジャワ島を占領してジャワはイギリス領になる。ヨーロッパでオランダ（バタヴィア共和国）がフランスの属国になっていたとき東インドはまだオランダ領だったが、ナポレオンがバタヴィア共和国をフランス領に編入した1810年7月にフランス領になった。続いて1811年9月からはイギリス領になっている。短期間ながら起こったこの目まぐるしい転変は、「インドネシアは350年間オランダの植民地だった」と語る人間の視野に入っていないだろう。350年間オランダ植民地説はホラ話である。

わずか数十年間オランダの支配下に置かれただけの地方（王国）もいくつかあり、更にVOC時代は国家を後ろ盾にした民間会社に侵略されていただけなのだから、オランダという国が350年間に渡って東インドを植民地にしたというのは事実反している。

イギリス領になったとき、イギリス東インド会社インド総督のミントー卿 Lord Minto がジャワ島の第39代総督を兼ねた。ミントー卿はダンデルスの作った新バタヴ

ィアを軍事的見地から絶賛したという話が遺されている。ただしダンデルスの人間性については軽蔑的だったようだ。

ミントー卿はほどなくラフルズにジャワ島の統治行政を全面的に委ね、ラフルズが第40代総督として植民地行政の改革に腕を振るった。ラフルズの時代、ヴェルテフレーデンはダンデルスが計画したままの形が維持されたようだ。ただし、ガンビル広場の名称をラフルズ政庁は、1815年に成立したオランダ王国を記念してコニングスプレイン Konings-plein と呼びはじめたことから、1818年にそれが公式名称にされた。

イギリス領になっていた東インドがオランダ王国に返還されたあと、ヴェルテフレーデンはダンデルスが作ったままの形で運営された。中央儀典プラザに遊びに来るエリート上流層を対象にしたカフェがヴィッテハウスの左ウイングに店開きしていたが、1836年ごろにコンコルディア Militaire Societeit Concordia と名付けられた軍人用社交場に変身した。しかし決して軍人専用クラブでなく、軍人も文民もこのクラブのメンバーになっている。

このヴィッテハウス左ウイングはインドネシア完全独立承認後、インドネシア連邦共和国議会が置かれ、インドネシア共和国統一国家に変わった後も共和国議会がそこを引き継ぎ、1965年にスナヤンのMPR-DPR議事堂ができるまで使われていた。

ところで、軍人用でなく文民用の社交場もまた別にあった。1776年に第30代総督（臨時）になるレイニア・デ・クラーク Reinier de Klerk のとき、VOC社員のための社交場がバイテンニューポートストラート Buiten Nieuwpoortstraat（今の Jl Pintu Besar Selatan）に設けられていた。ところがプチナンに囲まれたそのエリアがゴミゴミしたス

ラムになっていくのを嫌ったダンデルスがもっと環境の良いモーレンフリースの南端の先のレイスウェイク地区に移転させることにしたのである。

モーレンフリース南端周辺の土地で水田が営まれていたため、その一帯は早い時期からレイスウェイクという地名で呼ばれていた。1656年にバタヴィア城市の正面を防衛するための要塞が作られてレイスウェイク要塞 Fort Rijswijk と命名された。古い地図を見ると、この要塞はモーレンフリース南端の北西側に描かれており、ハルモニー社交場がその跡地に作られたという説とは合致しない。レイスウェイク要塞はオランダ人が Chinezen-moord、日本語訳が華人虐殺事件、インドネシア語は Geger Pacinan（華人街騒乱）と呼ばれるあの事件で激しく破壊され、それ以後放棄されたま

まになっていたようだ。その代わりにレイスウェイク要塞の場所には騎馬隊の基地 Cavellary Kazerne が置かれて Stalmeester と呼ばれていた。[続く]

「ヴェルテフレーデン（11）」（2020年04月28日）

ダンデルスは1810年にモーレンフリート南端地区一帯を整備させ、南端の東南部を文民社交場の移転先と決めて建設をスタートさせた。完成したのは1814年で、ラフルズが翌年1月18日にオープニング式典を行った。内部には四つのホールがあって柱と屈曲部で仕切られているだけだったので、数千人という超大規模なダンスパーティすら開催できた。建物内部は大理石の床や壁に豪華なシャンデリアや鏡、銅像などが飾られ、レストランやカフェに加えてビリヤード室や読書室などもあって、ヨーロッパの普通のクラブハウスを超越した宮殿のような建物だったようだ。

この社交場はハルモニー Societeit de Harmonie と名付けられたことから、モーレンフリート南端地区一帯はハルモニーと呼ばれるようになる。ラフルズはオープニング式典でこの建物の玄関の鍵を運河に投げ捨て、永遠に不夜城の賑わいが続くように祈ったようだ。ハルモニー橋に近い運河の泥の中を探れば、その鍵が見つかるかもしれない……？

オープニング式典の夜、21時に開始されたパーティは翌日夜明けまで続けられた。パーティでラフルズはイギリスとオランダの友好のために何度も乾杯の音頭を取った。ラフルズ政庁は、イギリスが統治権を握ったとはいえ、オランダ時代の行政官僚たちを大勢そのまま残してイギリス人に変えようとしなかった。人材の余裕がなかったことも確かだったが、アンチナポレオンのオランダ人はイギリスの同盟者なのである。その後もイギリスとオランダの友好を固めるために、ハルモニー社交場でのパーティは何度も開かれた。その時代、東インドでの事業に参入するイギリス人が増加した。

ハルモニー社交場ができると、その西側を南下して今のモナス広場に達する道も整備された。現在マジヤパヒツ Majapahit 通りと呼ばれているその通りは当初レイスウェイク通り Rijswijkstraat と名付けられた。コニングスプレイン周辺に政府機関や高級ホテルなどが作られてバタヴィアの街が更に南へと拡大していくころ、レイスウェイク通りから今のヴェテラン通り・ジュアンダ通り一帯にかけてはバタヴィア随一の高級商店街になっていた。

その高級商店街地区住民の中に、フランス人が目立った。そこには、パン・菓子・フランスやロンドン直輸入の靴やファッション・ブティック・宝石店・仕立屋・薬局・骨董装飾品などの店舗からダンスやフランス語のレッスンを行う教室やホテルまでが勢ぞろいした。

レイスウェイク通りをはさんでハルモニー社交場の対面にある、レイスウェイク通り商店街北端の店が当時バタヴィア最高の仕立屋だったオジ・フレール Oger Freres だ。モーレンフリート沿いにまっすぐ南下して来ると、橋の向こう側には左手にハルモニー社交場、右手にはオジ・フレールの店が目飛び込んでくる。

フランス人の兄弟がふたりで1823年に開店したこの店は正装紳士服を仕立てるバタヴィア最高の店で、ヨーロッパの流行を敏感に取り入れて最新ファッションを顧客に提供する技術は並ぶ者がいないと絶賛された。この店は百年を越える息の長いビジネスをバタヴィアで行っていたが、バタヴィアと共に姿を消したようだ。現在のこの場所は旅行会社ニトゥル PT Nitour 本社に変わっている。

その南側には1862年にバタヴィアではじめて民間薬局の認可を得て開店したグスタヴ・ヴァーナー・ヴィルケ Gustav Werner Wilcke の薬局があり、更に1866年にオープンしたバタヴィア唯一の眼鏡店デュレ J Duret があった。

もう少し下ると1850年開店の時計宝石貴金属店オリスラーハーV. Olislaeger があって、ヴェテラン Veteran 通りの同業者ファン・アルケン Van Arcken & Co. と賑わいを競ったようだ。この店は販売商品を自ら加工生産してバラエティに富んだ大量のストックを取り揃えており、東インドの全域にその名が知られていた。

その更に南にはパンとパストリーで有名なルロー Leroux & Co. がある。1852年にバリエーションに富んだケーキ・ビスケット・パストリーの商品を並べてオープンしたこの店は19世紀終わりごろまで続いたようだ。ルローの右隣は写真スタジオ、左隣は雑貨店で、いずれも短い期間に別の店に変わっている。

バタヴィアの黄金時代を印したレイスウェイク通り商店街は、今や往時の栄光すら見る影もないありさまになっている。ジャカルタの地区名称としていまだに残されているハルモニーの由来となったハルモニー社交場は1985年に解体撤去され、一部がマジヤパヒツ通りの拡張に使われ、残った地所は国家官房オフィスの駐車場になった。このエリアは今や、ほとんどの都民にとって通り過ぎるだけの場所と化してしまったようだ。[続く]

「ヴェルテフレーデン (12)」 (2020年04月29日)

話をヴェルテフレーデンに戻そう。

ヴァーテルロー広場の南側を占めていたオランダ植民地軍将校と兵員の居住地区 9. 3 Ha を5星級ホテルに変える構想を抱いたスカルノ大統領は1963年にその建設を指令した。当初の青写真は6階建て220室だったが、スカルノの立場に取って代わったスハルトが1965年に更に大型化させるよう命じ、12階建て695室のホテルとして1974年3月に公式オープンした。

スカルノ大統領はこのホテルをホテルバンテンと命名するつもりだったが、ジャワ人スハルト大統領はボロブドゥルの名称を選択したようだ。

ホテルボロブドゥルの西側のプジャンボン Pejambon 地区には現在、外務省がある。外務省敷地内には1830年に建てられた館があり、東インド植民地軍司令官だったヘルトフ・ベーンハード Hertog Bernhard がかつてそこを居所にした。ベーンハード公爵はドイツのザクセンワイマーアイゼナッハ Sachsen-Weimar-Eisenach 領主の息子であり、父親の没後、遺産を得られないことを知ったかれは1834年に蘭領東インドに新天地を求めてヨーロッパを去った。植民地官僚を務めてから軍に入り、1849年には東インド植民地軍司令官となって1852年までその職を務めた。当時、軍司令官は副総督の地位に就いたから、かれは新天地で栄光の階段を上り詰めたことになる。

東インド植民地軍司令官の官舎は最初、ヴァーテルロー広場の北側で現在カテドラル教会 Gereja Katedral が建っている場所にあった。1828年12月に植民地政庁はその場所を2万フルデンでカソリック教団に売却し、広場の南側に新しい司令官官舎を建てた。ベーンハード公爵が住んだ建物だ。しかし1916年に戦争省がバンドンに移転したため司令官もバンドンに移り、その直後から国民参議会 Volksraad がそこを使うようになる。日本軍政期には独立準備委員会が使用してインドネシア共和国憲法の議決などが行われたことから、今はパンチャシラ館 Gedung Pancasila と名付けられている。パンチャシラ館は外務省の所属になっていて、外務省が業務で使用している。

ヘルトフ・ベーンハードはその軍司令官官舎に住んだ人々の中のひとりだったはずなのだが、かれの名前だけが地名に残されたのは公爵というステータスのおかげだったのだろうか？このプジャンボン地区にはプジャンボン公園 Taman Pejambon があり、昔はヘルトフspark Hertogspark と呼ばれた。昔、プリブミの間ではクブンサユル Kebun Sayur というのが通称になっていたが、それはその周辺に住んでいたオランダ兵のために野菜がそこで栽培されていたからだ。

ホテルボロブドゥルの南側は既述通りの、モッスル総督のヴェルテフレーデンカン
トリーハウスが建てられていた場所だ。1836年になって東インド植民地軍ヴェル
テフレーデン大病院 Groot Militair Hospitaal Weltevreden がそこに建てられた。

この病院はプリブミ医師の養成に貢献し、ついには東インド医師養成学校 School
tot Opleiding van Indische Artsen 略称 STOVIA をその付属機関として1898年に
開校して

いる。アブドゥラッマンサレ Abdul Rachman Saleh 通り26番地の STOVIA の建物は
現在、国民決起博物館 Museum Kebangkitan Nasional になっている。また、軍ヴェル
テフレーデン大病院もインドネシア共和国陸軍に引き継がれて、ガトッスプロト陸軍
中央病院 Rumah Sakit Pusat Angkatan Darat (RSPAD) Gatot Subroto になっている。

更に南でプラパタン通りに面した場所には海兵隊本部や宿舎、警察機動旅団クウィ
タン司令部や隊員寮などが連なっている。それらの建物は1800年代初期にまで歴史
をさかのぼることができる。警察機動旅団クウィタン司令部は共和国独立前、軍病
院院長の官舎だった。

東インド植民地軍第十歩兵大隊もこのエリアにいて、Batalyon X という名で知られ
ていた。最初X大隊司令部は今ホテルボロブドゥルになっているエリアにあり、兵員
は軍病院の南側一帯に住んだ。ずっと後になって、STOVIA がサレンバ地区に移転した
後、X大隊司令部が STOVIA に入ったこともある。兵員はアンボン人・ティモール人・
マナド人で構成されていた。アンボン人が住んでいた地区はカンブンアンボンと呼ば
れて一般人はその地区に入って行くのを怖がった。クウィニ2通り Jl Kwini II には
海兵隊の司令部や営舎が設けられていた。[続く]

「ヴェルテフレーデン（13）」（2020年04月30日）

一方、ヴェルテフレーデンの地区の北端部にあたる、ヴィッテハウスとパレード場
の北側のブロックは最初、フランス軍第12歩兵大隊の営舎が設けられて兵員や指揮
官が収容された。その後は東インド植民地軍の首脳や高級将校たちの官舎になってい
た。

このブロックはブディウトモ Budi Utomo 通りが東側半分をヴィッテハウスのブロッ
クから区分し、西半分は北バンテン広場 Lapangan Banteng Utara 通りでバンテン広場

と分けられている。更にその東西部分はグドゥンクスニアン Gedung Kesenian 通りが分断している形だ。植民地時代、ブディウトモ通りは Vrijmetselaarweg、バンテン広場北通りは Waterloo-plein Noord、グドゥンクスニアン通りは Komediabuurt という名称だった。

その東側ブロックの中央部に古い建物がある。1889年に建てられたこの建物は1911年7月3日にPHS商業高校 Hogere Burgerschool (HBS) Prins Hendrik School として開校した。モハンマツ・ハッタ Mohammad Hatta 初代副大統領はこの学校で学んでいる。

その校舎が共和国独立後の1946年3月にインドネシア政府の最初の学校として使われた。これがジャカルタ国立第1高等学校SMAN1である。ブディウトモ通り7番地に位置していることから、SMA Budut/Boedoet の愛称で呼ばれることもある。

SMAブドゥツは元々病院だったらしい。建物の窓が大きく、建物内の廊下は細い鉄の柱が屋根を支え、丸いすりガラスの電球が一行につり下がっていて、おまけに元の建物配置は馬蹄形になっている。植民地時代に建てられた病院はたいていそれらの様式を取り入れており、馬蹄形の建物の真ん中部分には庭園が作られて、自然な環境を病院内に作り出す役割を果たしていた。

SMAブドゥツの右側、グヌンサハリ通り沿い運河寄りの土地は今、塀に囲まれた空き地になっている。この場所には植民地時代に軍刑務所が設けられていた。刑務所建物は撤去されて、今は空き地をさらすばかりだ。一方、左側にも古い時代の建物があって、現在はジャカルタ国立第1職業高校SMKN1になっている。この建物は植民地時代に軍関係のオフィスだったそうだ。そのオフィスで病院に入れられる者、刑務所に入れられる者の手続きが行われたのではないかと思われる。

ブディウトモ通りの植民地時代の名称フレイメツツラーヴェフはフリーメーソン通りを意味している。フリーメーソンの名が付けられたのは、その通り西端の建物がフリーメーソンのバタヴィア本部になっていたからだ。その建物は1858年に建てられた。その場所にそのための建物が作られて道路の名前にまでその名称が使われたのは、植民地政庁がフリーメーソンを東インドで公然たる組織として認め、政府中央のお膝元に座すのを許したことを意味しているように思われる。

VOC時代から、オランダのフリーメーソン会員は社員として東インドにやってきていた。言い換えるなら、VOCに雇用されて東インドにやってきていたひとびとの中にフリーメーソン会員がいたということだ。1756年ごろには既にかかなりの数に上っていたらしい。

1763年にヤコブス・コルネリス・マテウス・ラデルマッハー Jacobus Cornelis Mattheus Radermacher が6人の同志会員と一緒にバタヴィアに組織を作り、会の名称をルショワジール Le Choisile とした。1778年に公認されたバタヴィア芸術科学ソサエティを興したのもこの人物だ。

ところが10年経たないうちにルショワジールは消滅した。VOC高官を筆頭にす文民グループと軍人をメインにするミリタリーグループに分裂したからだ。ミリタリーセンスを優先するグループは La Fidele Sincerite ロッジを形成し、文民グループは La Vertueuse ロッジをそれぞれ別の場所に作った。VOC中枢部に近いという社会的ステータスをかさに着て、文民グループがミリタリーグループを見下す傾向にあったことは疑いあるまい。時には両ロッジ間の緊張があわやというレベルに達したこともあったようだ。[続く]

「ヴェルテフレーデン（14）」（2020年05月04日）

一方は最初タンボラ Tambora 地区にロッジを設け、その後バタヴィア市内のユトレヒト通り Utrechtstraat（今の Jl Kopi）に移転させ、更に1773年になってティヘルツフラフツ Tijgersgracht（今の Jl Pos Kota）に移った。

もうひとつは1769年から1780年まで会員の家で持ち回りにされてからモーレンフリートヴェスト Molenvliet West（今の Jl Gajah Mada）にあるダニエル・クレイスマン Daniel Kreysman の屋敷が常設ロッジにされた。その後、両者の歩み寄りが進められる中で1830年にフリーメーソン本部ができると、このグループはクレイスマンの屋敷からさっそくそこにロッジを移動させている。

植民地政庁はフリーメーソンを公認団体と認め、両者の統一を促進させた。そのため本部館を用意するために、ブディウトモ通り西端の国有地を寄付している。1830年に最初のフリーメーソン本部館が建てられて文民グループはそこに移ったが、ミリタリーグループが完全な一体化に応じるまでにまだ少し時間がかかった。1837年に両者の統一が果たされて、87人のメンバーが De Ster in het Oosten (The Star in the East) をスローガンにする蘭領東インドフリーメーソンの活動に邁進するようになる。

その館は1856年に建て替えられることが決まり、1858年に豪壮なインディッシュエンパイア様式のデザインに変更されて今日に至っている。20×27メートルの建物の正面玄関に設けられた5本の柱で支えられているフロントポーチのひさしには、De Ster in het Oostenを示す五角星のロゴが大きく描かれていた。その柱も最初はドリア様式のものだったが、建て替えられたときに現在のものになっている。

蘭領東インドフリーメーソンは1860年前後から、高い知性を涵養するメンバー間の友愛と連帯を目的としたそれまでの閉鎖的なベールをかなぐり捨てて、より社会的な価値を追求する組織へと転身し始めた。1864年には本部館の中に図書館を開設して一般開放したり、1865年には技術技能を男子に修得させるための学校をオープンし、1900年にも女子を対象にする全寮制の学校を作っている。

この建物は1917年に製薬会社 NV Chemicalien Handels-vreeniging J Van Gorkom & Co (別の説では NV Chemicalien Handels Rathcamp & Co) の本社になっていたが、1958年にインドネシア共和国政府がいくつかの製薬会社を合併させて国営のBhinneka Kimia Farmaに変身させた。社名が現在の国有会社 PT Kimia Farma になったのは1971年8月である。かつてフリーメーソン本部館に描かれていた五角星のシンボルマークは現在、キミアファルマ社のロゴ旭日 matahari terbit に替わっている。

1925年、メンテン地区タマンスラパティ Taman Surapati に通りをはさんで対面している場所にフリーメーソンの新ロジ Vrijmetselaarsloge Adhuc Stad が建てられた。

メンテン地区がニュータウンとして開発が始められたのは1910年代のことで、タマンスラパティは作られたとき、初代バタヴィア市長を務めたビスホッフ G. J. Bisschop の名前を記念してビスホッフ市長広場 Burgemeester Bisschopplein と名付けられた。かれもフリーメーソン会員だったのであり、フリーメーソン新ロジがその場所に建てられたことに、それは関係があったのかもしれない。

1966年にG30S事件に関連して特別軍事法廷がこの建物で開かれ、政界要人たちがそのクーデター事件に関わったかどうかの裁判が行われた。その後1967年に国家開発企画庁 Bappenas がこの建物で業務を開始して今日に至っている。

ヴィッテハウスのすぐそばの本部館にせよ、メンテン地区という新開エリート住宅地の中央に設けられた新ロジにせよ、フリーメーソンに対する東インド政界の姿勢がどのようなものであったのかということ、それらの事象が赤裸々に物語っているようにわたしには思われる。[続く]

「ヴェルテフレーデン（15）」（2020年05月05日）

ヴィッテハウスすぐ傍らのこの建物はインドネシア語で Gedung Bintang Timur 「東星館」と命名されたものの、プリブミ庶民たちはその名前を呼ばずにたいてい悪魔館 Gedung Setan/rumah setan と呼んだ。その理由に、この建物が空き家になっていた時期に、建物警備員や近くを通る通行人の耳に演説の声と多数の聴衆のざわめきや笑い声がどこからともなく聞こえてきたり、昔の服装をしたオランダ人トアンが建物フロントポーチに歩み寄り、柱の間の向こう側に姿を消すありさまを目にすることがときどき、しかし何年にもわたって起こった、という話が述べられている。

別の論者の意見では、フリーメーソンが行っている会合に集まって来るひとびとの様子がいかに秘密めいており、また中で行われていることが魔教の神を崇めているように想像されるためにその名が付けられた、と述べられている。後者の意見と似たようなものは西洋人の間でも人口に膾炙していた。一般社会がフリーメーソンに対して抱いた印象は不審と疑惑に満ちていたようだ。その秘密結社はオカルト科学の開発に努めており、錬金術や

魔術の解明のために悪魔的儀式を実践していると疑われていたことはよく知られている。

ところで、インドネシアはイスラム文化の国だからユダヤ系の人間は存在しないなどという浅薄な見解は、歴史を知らない者が陥りやすい落とし穴だろう。植民地時代にユダヤ系オランダ人やヨーロッパ人がやって来なかったはずがなく、レイスウェイクがバタヴィアトップクラスの商業中心だった時代、店主の中にユダヤ系の人間は数えきれないほどいたという話になっている。その時代、ユダヤ系の人間はみんなどこかの国の国民になっていたから、ユダヤという属性名称が出て来ないのも当然のこと、その辺りのことが弁別できなければ実態は見えてこないのではないだろうか。

もっと想像を絶するような話としては、ヨーロッパ人がやってくる以前からアラブ系ユダヤ人が商人としてヌサンタラに渡って来ていたというものもある。分類する必要があったときはイスラム教徒に分類されていたそうだが、実態としてはユダヤ教徒であるという者も少なからずいたようだ。1923年にはスラバヤにシナゴークが建てられており、ユダヤ人コミュニティの存在をそれが明示している。アラブ対ユダヤという観念的な視点に取りつかれてしまうと、この種の話は理解できなくなるにちがいない。

歴代の東インド総督の中にもフリーメイソン会員がいたし、高名な画家ラデン・サレ Raden Saleh も会員だったようだ。インドネシア最初の青年組織ブディウトモが STOVIA 学生の間で発足してから、そのメンバーの多くもフリーメイソン会員になったらしい。フリーメイソン本部が1926年4月30日から5月2日まで開催された第一回青年会議の会場に使われたことや、また通りの名称が独立後にブディウトモ通りに替えられたこと、更にこのブロックの北側がストモ医師 Dr. Sutomo 通りになっていることなどを思い合わせると、このブロックにはそれらを結び合わせる何らかの縁があったのかもしれない。

1962年、スカルノ大統領は大統領決定書第264号を公布して、フリーメイソンソサエティおよび他の6社会団体に対する禁令を下した。アブドゥラッマン・ワヒッド第4代大統領は2000年大統領決定書第69号を出して、1962年決定書第264号を取り消した。40年近くにわたって禁令の檻に閉じ込められていたフリーメイソン会員はグス・ドゥル大統領によって解放されたことになる。かれらはもはや、共産

「ヴェルテフレーデン（16）」（2020年05月06日）

西側ブロックの悪魔館に近い場所にはモダンな六角形のジャカルタ中央郵便局 Gedung Pos Ibukota Jakarta があり、その北側にエンパイア様式の豪壮なフロントポーチを持つ古い建物がある。それがジャカルタ芸術館 Gedung Kesenian Jakarta だ。この建物の歴史は次のようなものだったらしい。

ダンデルスはこの場所にヴェルテフレーデン軍人シアター Schouwburg Weltevreden を作らせた。250人の観客が収容できるとはいえ、草ぶき屋根に竹編みの壁で作られたこの劇場を関係者たちはバンブーシアター Bamboe Theater と呼んだ。ラフルズの時代に芝居好きのイギリス兵たちは Schouwburg Muncipel Theatre あるいは Gedung Komidi と呼んでそこを愛用した。

1816年にイギリス軍が去ったあと、1817年4月21日にオランダ人が Ut Desint vires tamien est laudanda voluntas をスローガンとする観劇愛好団体を作って資金を集め、4後の1821年に恒久的な劇場に姿を変えさせた。新装オープンはその年12月

7日に行われている。以来、劇場ではさまざまなプログラムが演じられた。オペラ、コメディ、舞踊、歌謡、音楽演奏、更にはサーカスやマジックに至るまで。

1906年には全ヨーロッパに名を馳せたルイ・ボウミスタル Louis Bouwmeester 率いる劇団が訪れて芝居を上演したし、フォン・デ・ヴァル Von de Wall、ヴィクトル・イド

Victor Ido、ヤン・ファブリシヤス Jan Fabricius、ルイ・クペラス Louis Couperus などが率いる地元劇団も頻繁に舞台に上がった。

日本軍政期には軍政監部の宣伝部と啓民文化指導所が宣伝活動のためにプリブミの演劇活動を奨励し、劇場の使用は頻繁に行われた。プリブミがオランダ語名称を使うのを嫌った日本軍政は、Schouwburg Weltevreden を Gedung Komidi Passer Baroe に、オランダ語

tooneel に由来するインドネシア語 tonil を sandiwara に変更させた。

共和国独立後、インドネシア大学経済学部と法学部がしばらくこの建物を使い、その後はシティシアター City Theater と名を変えて映画館にされた。舞台劇場として復活したころに、コメディ館 Gedung Komidi という名前は芸術館 Gedung Kesenian に変わったが、タマンイスマイルマルズキ Taman Ismail Marzuki ができてからは、芸術館の使用頻度は大幅に減少した。

この劇場は外見の大きな印象に反して中は狭く、中に入った人は意外な印象を抱くのが普通だ。概して巨体のオランダ人たちが、役者にしろ観客にしろ、どのようにこの中に入っていたのかを想像すると奇妙な思いを避けることができない。

ジャカルタ芸術館の西側には国有郵便会社 PT Pos Indonesia が所有するフィラテリ館 Gedung Filateli Jakarta がある。この建物は1913年に建てられて、植民地時代にはバタヴィア中央郵便局として使われた。一方、バタヴィア旧市街のファタヒラ公園 Taman

Fatahillah をはさんで旧市庁舎 Stadhuis の対面にあるコタ郵便局 Kantor Pos Kota はもっとあとの1928年に建設されたものだ。

インドネシアの郵便の歴史は、VOC時代のファン・イムホフ第27代総督が1746年にその口火を切った。まずバタヴィアに郵便局がオープンし、続いて4年後にスマランにも郵便局が作られた。二都市間の郵便ルートはバタヴィア～カラワン～チルボン～プカロガン～スマランという道程だった。ダンデルスが大郵便道路を開いたことで、配送日数は大幅に短縮されたにちがいない。[続く]

「ヴェルテフレーデン (17)」 (2020年05月08日)

サンタウルスラ Santa Ursula 学園がフィラテリ館の西側でブロックの南北一杯に広がっている。オランダのウルスリン Ursulines がバタヴィアに進出したのは1857年以来のことだ。かれらは最初、ノードウェイクにシントマリー修道院 Sint Mary Klooster を設けて活動を開始した。ところがそこが手狭になってきたため、1859年にヴェルテフレーデンのその場所にも修道院を建てて活動を分散した。ヴェルテフレーデンでの活動はさらに発展を続けて、小さかった修道院は拡張され、1891年にはチャペルが建てられている。

更に1912年に女子教育のためのユリアナ王女学校 Prinses Juliana school が開校されて公的学校教育へと向かった。現在サンタウルスラ学園はカソリック教系の教育機関として幼稚園から高校まで女子生徒だけを対象にする一貫教育を行っている。全生徒数は5千人に達するそうだ。

その隣、西側ブロックの西端にネオゴシック様式の荘厳な姿を佇立させているのが、1901年に完成したカテドラル教会 Gereja Katedral である。この建物を空から見ると、十字架の形をしている。日本軍政期にこの建物は敵軍の空襲に対する防衛策として緑色に塗り替えられた。戦後もその色のままで通し、1988年に大メンテナンス工事が行われたときに、白色に戻されている。

ルイ・ナポレオンがオランダ国王になったとき、それまでプロテスタントが有力だった東インドにカソリックが入って来た。ローマ教皇庁から使徒座知牧 Praefectura Apostolica として派遣されてきたふたりのオランダ人がバタヴィアに駐在するようになる。

1808年4月にバタヴィア入りしたふたりは、ダンデルス政庁からパレード広場南西にある竹編み壁の居所を与えられた。後にヘルトフスパルクになる場所だ。しばらくはカソリック教徒の協力を得て、個人の邸宅で宗教行事を行っていたが、ふたりにとって教会の必要性は切実な問題だった。ダンデルスがその必要を満たすためにガンクナガにある教会を1810年2月、ふたりに提供した。ところが、1826年7月27日、ガンクナガ南地区で火災が発生し、180軒の家屋と共にその教会も灰燼に帰したのである。

デュ・ビュス・ドウ・ジジニー第43代総督は自らもカソリック教徒であり、カソリック教会が各地に作られ始めて発展してきたにも関わらずバタヴィアに教会がないということ放置できず、ヴァーテルロー広場の北側ブロック西端の地所を新教会建設用地として2万フルデンで売却することを決めた。そこはそれまで国防省建物があり、そして軍司令官官舎もあった場所だ。

こうしてその場所に33 x 17メートルの教会が1829年11月6日にオープンし、De Kerk van Onze Lieve Vrouwe ten Hemelopnemingと命名された。英語ではThe Church of Our Lady of Assumptionという訳語になっている。ところが雨漏りが激しいために1859年に改修工事が行われ、しばらくしてからまた改装工事が行われた。

最後の改装工事が終わった1880年から十年経った1890年4月9日午前10時45分ごろ、思いもよらず教会の大部分が崩れ落ちたのである。再建工事は1891年から開始され、費用不足のために頻繁に中断されながらも十年の歳月をかけた末に、1901年4月21日に再建なったカテドラル教会が再びオープンした。[続く]

「ヴェルテフレーデン（終）」（2020年05月11日）

ダンデルスがバタヴィア城内からヴェルテフレーデンに行政と軍事のセンターを移したことは首都移転と言えるかもしれない。VOCからオランダ植民地政庁への過渡期だったこと、イギリスとフランスの戦争がその地を襲ったことなどの要因がその移転を促したわけだが、ダンデルスは最初、オランダ植民地の首都をバタヴィアからスラバヤへ移すことを考えた。防衛戦にはスラバヤの方がはるかに有利だというかれの軍人としての戦略眼がそのアイデアを抱かせたわけだ。しかし切羽詰まった時期に悠長なことなどしてられない。結局かれは現実的にならざるを得なかった。

植民地時代のもっと後にも、首都移転構想は出されている。ファン・リンブルフ・スティルム Johan Paul van Limburg Stirum 第66代総督はバンドンへの首都移転を計画した。植民地軍司令部・鉄道局・郵便電信電話局などがそのとき（早まって）バンドンに移転した結果、共和国の国鉄や郵便会社がバンドンに本社を持つようなことになってしまった。日本軍が進攻してきたとき、蘭領東インド植民地軍の本部がバンドンにあったのはそれが理由だ。

インドネシア共和国初代大統領スカルノも、首都をジャカルタから別の場所に移すことを考えた。植民地支配者がかれら自身のために建設した、支配者の驕りのしみ込んだ町、ジャカルタを、スカルノは嫌った。ヴィッテハウス+ヴァーテルロー広場の

機能をムルデカ宮殿+モナス広場に移してしまったことや、ヴァーテルロー広場とコニングスプレインの間にあったヴィルヘルミナ公園 Wilhelmina Park とフレデリック・ヘンドリック要塞 benteng Frederik Hendrik を無くしてイスティクラルモスクに代えたことなどは、スカルノのその感情の結晶と見ることができる。

1947年にスカルノは国都大委員会 Panitia Agung Ibu Kota Negara を作って首都の移転先を検討させている。委員会はバンドン・ボゴール・マグラン・マランなどの候補地を答申して、1954年に解散した。それらが候補地にされた理由の中に植民地時代に反オランダ闘争が行われたことが散見されたのは、スカルノの心を読んだの回答だったにちがいない。

移転先候補地として話題になったのは、ブキッティング、パレンバン、パラカラヤ、などだったが、煮詰められないまま大統領が交代した。スハルトレジームはスカルノの持ったアレルギーと無縁だった。ところが晩年になって1990年代に突如、ボゴール県ジョンゴル Jonggol の名前が浮上してきた。ジャカルタから50キロほど離れた寒村だ。そのとき発生した土地投機売買は一般庶民までがその踊りに巻き込まれた感がある。庶民が踊っているときに行政は既に口をつぐみ、突然だれもがジョンゴルの語を口にしなくなったため、何がどうなったのか分からないままみんなが損や得を抱えて日常生活に戻って行った。

SBY大統領のとき、2012年にも首都移転の話題が出た。パレンバン・カラワン・南スラウェシ・パラカラヤなどが候補地と騒がれたものの、SBY大統領は乗り気でなく、大ジャカルタ地区のビジネスと経済の発展推進をかれは重要政策として実施していた。

[完]